

## 北海道農政事務所の事務・事業と連携した事例収集

取組名 : 森林資源を活用した地域活性化  
 取組主体 : 地域再生プロジェクト推進協議会  
 所在地 : 津別町字幸町 4 1  
 代表者名 : 津別町観光協会

## 1 取組の目的

森林資源が町全体面積の 86% を占める津別町では、森林資源を最大限活かし、体験・滞在型観光の確立により地域産業振興、活性化をはかることとした。

## 2 取組の概要

阿寒国立公園に隣接する原生林(上里地区)を活かし、森林浴などを通して健康増進を図る「森林セラピー(療法)基地」の認定取得を柱に据え、地場産業や地元イベントとの融合を図りながら地域活性化を推進している。そのため自然公園、温泉宿泊施設、散策コース等の整備や森林セラピーガイド、プログラムを作成できる森林セラピストの育成、地元食材・木工品を利用した「森林セラピー弁当」の試作、住民や企業など町を挙げての意識向上等に取り組んできた。森林総合研究所の現地視察や実証実験でセラピー効果が証明され、本年4月に全国で39カ所目(道内2カ所目)となる「森林セラピー基地」に認定されたことから本格的な観光振興を展開している。

本年6月には「第6回くりん草フェスティバル」を開催した。例年は1日開催だがセラピー基地認定に合わせ15日間のロング開催とし森林ヨガ体験、森のコンサート、シンポジウムなど多彩なイベントを盛り込み延べ5千500人(前年1千人)の来場となった。また、散策コースに隣接する温泉宿泊施設の利用者数も増加している。

## 3 今後の取組目標

体験・滞在型観光を中心に交流人口の増加を図るため、既存の町内各種イベントやグリーンツーリズムとも連動させ、メディアを活用したPR活動や旅行代理店への売り込み等を積極的に実施する。森林セラピー基地の認定は津別町全体として認定を受けているので、チミケップ湖や津別峠の眺望など他の資源とも連動させる方向で集客力アップを図りたい。

## 4 取組の課題

「津別町に行けばこんなに楽しく健康的な体験ができる、こんなにヘルシーで美味しい料理がある」など具体的な森林セラピープログラムを提示しなければならない。そのためプログラム作成資格をもった森林セラピストの養成や継続性のある運営母体の組織化が課題となっている。

## 画像

(整備された散策路)



(群生するクリンソウ)

